

胎内に書き込まれた寺院復興支援者と祐天上人の墨書
もくぞうしゃかによらいざぞう
木造釈迦如来坐像



この仏像は、高さが244cmの寄木造りで、制作当初部分（頭部前面から胸部）に使用されたカヤ材などから、制作時期は鎌倉時代初期と考えられます。光背部分に刻まれた元禄9年（1696）の銘と文政12年（1829）に著わされた由緒から、江戸時代中期に大きな補修を行ったことがわかりました。一級の仏師による補修と推定され、頭・体のバランスが非常に良く、制作当初の威容を損なうことなく現代に伝えています。補修事業にかかわった祐天上人（1637～1718）は、東大寺など全国各地の寺院復興に尽力した高僧で、この釈迦如来坐像の胎内墨書は祐天直筆の弥陀六字名号のほか、補修のために寄付をした万人講の結縁者名が記されています。

市指定文化財：有形文化財（彫刻）

指定年月日：平成19年2月5日

所在地：木更津市曾根96

所有者：宗教法人 釋蔵寺

員数：1 軀

公開・非公開の別：非公開
